

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「ものづくり教育」を土台に、社会の変化に柔軟に対応し、Society5.0の時代に活躍できる人材を育成する学校をめざす。

【本校が育てたい生徒像】

- 1 「ものづくり」を通して学ぶことを楽しむ生徒
- 2 自己肯定感を高く持てる生徒
- 3 協働して目標を達成できる生徒
- 4 自立して自ら未来を切り拓いていくことのできる生徒
- 5 より良い社会を創っていきたいと考える生徒

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) ICTを活用するなどして、生徒一人ひとりの能力に寄り添った「わかる授業」を行うことにより基礎学力の向上を図る。
 - (2) 「主体的・対話的で深い学び」を通じて、「生徒の興味関心を高める授業」を研究・実践する。
 - (3) 専門分野の技術・技能の向上を図る。また、社会の要請に応える新たな「ものづくり教育」に挑戦していく。
- *学校教育自己診断(生徒向け)【以下「生徒アンケート」と表記】の「授業の分かりやすさ・教え方の工夫」について肯定的回答を80%以上にする。
(R1 80.6% R2 82.3% R3 86.9%) 【R4】90.1%
- *各教科における授業アンケートの結果において「授業について興味・関心が高まった」についての肯定的回答を70%以上とする。
(R1 78.9% R2 80.7% R3 83.3%) 【R4】81.0%

2 安全・安心な学校づくり

- (1) 学校が生徒の「居場所」となり、生徒が安心して学ぶことができる環境づくりを行う。
 - (2) 生徒情報の組織的な集約・共有化を図り、生徒一人ひとりを細やかに指導する体制を構築する。
 - (3) 人権教育・安全教育を一層充実させ、生徒が人権を尊重し、互いを大切に作る精神と態度を培う。
 - (4) 生徒の健康管理・安全衛生の意識を高め、健康的な生活習慣を培う。
- *中途退学者を在籍者数の2%以内にする。(R1 8.5% R2 7.9% R3 2.8%) 【R4】4.2%
- *部活動の生徒の加入率を50%とする。(R1 34.1% R2 33.7% R3 40.6%) 【R4】44%

3 自ら未来を切り拓く生徒の育成

- (1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図り、集団の中で好ましい人間関係の形成に努める。
 - (2) 資格取得の指導を通じて、生徒にチャレンジ精神や達成感を醸成し、進路実現への意欲を高める。
 - (3) 特別活動や生徒会活動など、協働してものごとに取り組む教育活動の促進。
 - (4) 3年間の計画的・組織的なキャリア教育を通じて、生徒一人ひとりの自己実現を支援する。
- *資格取得受験者(合格者)の増加をめざす。(R1 延べ622名 R2 延べ476名 R3 延べ536名) 【R4】延べ448名
- *就職希望生徒の100%合格を継続する。(R1 100% R2 100% R3 100%) 【R4】100%

4 地域に信頼される魅力ある学校づくり

- (1) 地域(保育所・地元企業・地域区役所等)との連携を深め、生徒が社会と直接つながる「社会に開かれた教育課程」を実現する。
- (2) 中学校との連携を深め、情報交換を密にするとともに、工業高校の学びの魅力を積極的に発信する。
- (3) 本校の特色ある教育内容を広く府民に情報発信し、学校PRに努める。
- (4) ICTを活用するなどして校務の効率化を図り、教職員が生徒と向き合う時間や、学校の更なる魅力化に力を発揮できる環境をつくる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年 1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>本校での生徒へのアンケート結果からの分析を行う。 「学校へ行くのが楽しい」と感じている生徒は76.6%と少し低めの結果となったが、「自分の学級は楽しい」と感じている生徒は約85%と自分のクラスでの生活に楽しさを感じていると思われる。担任との関りの良好さを感じる部分である。特に、身近な友達との関係の良さがこの結果に表れていると考える。これは、「かかわりづくりワークショップ」や学校行事の工夫など学校からの働きかけを通し、様々な地域から登校してくる生徒たちの仲間意識の醸成が功を奏しているのではないかと考えられる。 また、各教員の授業の工夫やICT機器の活用を通したわかりやすい授業づくりから、生徒が授業に対して前向きに感じていることも要因かと考える。それは、「授業はわかりやすく、楽しい」が1学期末のアンケートでは約70%が肯定的な回答であったのが、3学期当初のアンケートでは約84%まで伸びていることから感じ取れる。 さらに、ICT機器を大いに活用した授業展開や「ものづくり」を通した学びの楽しさなどを本校の取組みの柱として行ってきた中で、「この学校は他の学校にない特色がある」というアンケートに、90%の生徒がそう感じていることから、学校の取組みが十分に伝わっているようだ。 しかしながら、「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」</p>	<p>■ 第1回学校運営協議会 学校運営協議会委員から次のような意見があった。 ○学校内に居場所があるという取組みはありがたいこと。一番大事なこと。 ○他人を認める、自分を認めてもらうということは大切なこと。 ○クラブや学校行事を通して、人づくりができていないのではないかと。 ○人とのかかわり合いが持っていると感じた。会社としても、そのような人との関わり合いを大切にしている。 ○中期的目標内の「1 確かな学力の育成」について、学習するための周りの環境は大切。「2 安心安全な学校」につながるものと捉えている。 ○「3 自ら未来を切り拓く生徒の育成」について、様々なことを「協働」で取り組んでいる。教員が生徒のことを考えて、熱い気持ちで携わっていることが感じられる。 ○学校生活に対して、肯定的な回答が80%以上あり、達成しているのではないかと。 ⇒ 現状を維持することを大事にしながら、ネガティブな気持ちを感じている生徒へのアプローチも取り組んでいく。 ○校長の考えが伝わってきた。 ○淀川区工業会として、工場見学やインターンシップなど協力、連携をしたい。 ⇒ 学校としてもありがたい。今後、担当の部署に伝え、連携をお願いしたい。</p>

というアンケート項目では、1学期終わりも3学期当初においてもほぼ変わらず約66%にとどまっている。今後は、新学習指導要領の趣旨に則り、生徒に思考させ、発表させる機会を増やすなどして、能動的に授業に臨む生徒をどう育てるかを学校として深めていきたい。

その他のアンケートの結果は、85%以上の肯定的な回答であったが、それに安心することなく、その回答の裏には否定的な感覚を持っている生徒もいることにも注目して、より多くの生徒が学校に対し、肯定的な感覚が持てるよう引き続き取り組んでいきたい。

○AI型学習ドリルを活用されており、生徒の学び直しややり直しの機会があり、生徒にとってはありがたいと思う。

○先生と生徒の言葉のキャッチボールが十分にあると感じた。

○ハイパーQ-U(*)の結果から、「要支援群」になっている生徒への支援を検討していただきたい。この生徒への支援を進めることで中途退学者を減らす一つの方策にもつながると思う。

*ハイパーQ-U: 対人関係能力を診断し、生徒がどの程度ソーシャルスキルを身に付けているかを判定するテスト。クラスや学年集団の特徴や傾向を把握することもできる。

○学校運営協議会としては、本経営計画でしっかりと取り組んでいただきたい。

■ 第2回学校運営協議会

新型コロナウイルス感染症の再度の拡大のため、文書の送付での協議とした。
内容は「スクールミッション(案)」と「スクールポリシーへと繋がる部分(案)」について、文書を送付し、意見を求めた。
「よくまとまっており、適切な内容である」という意見であった。

■ 第3回学校運営協議会

○学校内に生徒の「居場所」となるもの・ことが存在することが「学校が楽しい」「クラスが楽しい」の肯定的な数値になっているのではないかと考える。

○人と人とのコミュニケーションができていて、級友や教職員とのつながりが大きいと考える。

○教職員が生徒とよい関係で接してくれていると感じている。
⇒ 学校としては、クラブ活動をはじめ、様々な取組みを通し、生徒の学校内での居場所づくりを進めている。

○生徒の学校への意識を数値化できていることはいいことである。その中で「資格取得」の数が減ったのはなにか理由があるのか。
⇒ 過去には、全員に資格取得に挑戦させていたが、生徒にとってはそこが負担になっていたことが分析によりわかってきた。そこで、現在では、希望するものに補習や補講等を講じて、より高い資格に挑戦させている。受験数は減ってはいるが、合格率は上がっている。生徒の挑戦する意識の向上をどうすることがいいのか模索しているところである。次年度においては、生徒へのアプローチの仕方を工夫し、生徒が挑戦しようと思えるような資格取得への取組みにしたい。

○遅刻等の多い生徒の情報はSSWとも共有できているか。
⇒ 課題のある生徒や不登校傾向のある生徒、仕事に取り組みたいが、面接等でうまくつながれない生徒への支援を中心に行ってもらっている。

○遅刻の多い生徒へは短時間でもいいのでSSWとの面談などにつなげるのも一つの方法と考える。

○保護者として、放課後に子供たちが学校で居場所がある「放課後カフェ」があるのを知ったのは、今年度の文化祭の時だった。もっと保護者にも知ってもらい、保護者にも協力できる形にしてもらってもいいかも。

○新型コロナウイルス感染症の取組みの中、中学校も生徒の欠席や遅刻に対するハードルが下がったように感じている。

○また、中学校卒業後すぐに通信制の学校に進学入学する生徒が増えてきている。進学を考える中、大きく進学先選びも変化してきていると感じている。

○次年度においては、達成できているところは引き続き強く推し進めてもらって、達成できなかった部分については、取組方法などを工夫してもらってより生徒が肯定的な学校生活を送れるような学校づくりをお願いしたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)「わかる授業」の実践</p> <p>(2)「生徒の興味関心を高める授業」の実践</p> <p>(3) 専門分野の技術・技能の向上。新たな「ものづくり」教育への挑戦</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生の英・数・国において、1クラス2展開の少人数授業を実施する。また、5教科(国社数理英)対応のAI型学習ドリルを活用して、個別最適な学びを進める。 学習支援クラウドサービスの活用(課題送付・オンデマンド授業・反転学習・ポートフォリオ作成による観点別評価の蓄積等)により教科指導の質の向上をめざす。 R3校長経営戦略予算を活用して各ホームルーム教室に設置したプロジェクタを活用し効率的で視覚的にもわかりやすい授業を展開する。 <p>(2) 新教育課程の科目「キャリアガイダンス」「基礎講座」を軸に、教科横断型・探求型の授業を展開する。PBL(Project Based Learning)の手法を活用して、「ものづくり」を自らの将来や社会と繋げるなどして、深く考える力を養う。</p> <p>(3) 現在の産業社会で必要とされる技術を精選し、実習内容の見直しや新たな実習の検討を行う。ア R3に導入したマシニングセンタを活用した新しい「ものづくり」イ ドローンに関する検定の取得や操縦技術の習得・プログラミングなどに取り組み、新工業系高等学校(本校の校地においてR9以降開校予定)のカリキュラムに継承できる教育内容につなげる。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「先生は授業で教え方を工夫している」75% 1年生における5教科の授業時間の60%以上でAI型学習ドリルを活用する。 授業アンケート「先生はICT機器を効果的に活用している」75% <p>ホームルーム教室で授業を行う教員の70%以上がプロジェクタを活用する。</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート「授業内容に興味関心を持つことができた」「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」75% PBLにおける各学年の生徒発表会(年1回以上) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート「授業を受けて、知識や技能が身についたと感じている」75% マシニングセンタ、ドローンを活用した実習指導書を8月末までに作成し、9月以降活用しながら修正を行う。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「先生は授業で教え方を工夫している」肯定的な回答は90.1%(◎) 1年生における5教科の授業時間の60%以上でAI学習ドリルを活用する。教員アンケートで76.5%の教員が活用した(○) 授業アンケート「先生はICT機器を効果的に活用している」肯定的な回答は91.1%(◎) ホームルーム教室で授業を行う教員の70%以上がプロジェクタを活用する。教員アンケートで88.2%(◎) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート「授業内容に興味関心を持つことができた」肯定的な回答は81%(○) 「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」肯定的な回答は65.8%(△) PBLにおける各学年の生徒発表会発表会を1回開催(○) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート「授業を受けて、知識や技能が身についたと感じている」肯定的な回答は82%(○) 実習指導書(マニュアル)を作成し、GoogleClassroom上に掲載した。(○)
2 安心・安全な学校づくり	<p>(1) 生徒が安心・安全で学ぶことができる「居場所づくり」</p> <p>(2) 個に応じた細やかな指導体制の構築</p> <p>(3) 人権教育・安全教育的の充実</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学(立命館大)と連携する「かかわりづくりワークショップ」、NPOやフードバンクと連携する「放課後カフェ」、部活動などを通じて、生徒一人ひとりが自分の「居場所」と言える場所を見つけることができる環境づくりを行う。 図書館を学力向上や基礎的教養を深める場所であるとともに生徒にとって身近でかつ活用しやすい場所となるよう工夫する。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全生徒対象に、総合分析シート(中学校・保護者からの情報、成績、学校生活アンケート・教員分析などの一覧表)を作成し、教員で情報の共有化をする。またスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーなどと連携しながら、必要に応じて「個別の指導計画」等を作成するなど、一人ひとりのニーズに対応した指導を充実する。 自立支援コースの生徒に対しては、上記の内容に加えて、合理的配慮の観点から授業のユニバーサルデザイン化を図り、進路希望に合わせた実習計画・教育支援を行うなど支援体制の整備に取り組む。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権講演会等の充実・活性化に努める。LGBTやSDGsなど多様な人権テーマに取り組む。 交通安全・SNS・薬物に関する講習などを実施し、各々の知識の提供と生徒の意識の向上を図 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「学校に行くのが楽しい」80% 部活動加入率45% 図書館での授業活用を年間10回以上行う。また、教員の組織改編を行い、図書館運営の効率化を図る。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「担任の先生以外(SSW・SC含む)にも相談することができる先生がいる。」75% 自立支援コース生徒の希望進路達成率100% 各教科の授業におけるユニバーサルデザインの手法を検討し、共有化することにより、「東淀版授業のユニバーサルデザイン」を年度末までに作成する。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権講演会を1回、各学年人権学習会を1回実施 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「学校に行くのが楽しい」肯定的な回答は76.6%(△) 部活動加入率44%(△) 組織改編を行い、図書館運営の効率化を図ったが、授業における活用はなかった(△) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「担任の先生以外(SSW・SC含む)にも相談することができる先生がいる。」肯定的な回答は82.2%(○) 自立支援コース生徒の希望進路達成率100%(○) 今年度末までに「東淀版授業のユニバーサルデザイン」の作成には至らなかった。(△) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権講演会を生徒対象、教員対象それぞれ1回ずつ各学年人権学習会を1回実施することができた。(○)

府立東淀工業高等学校

	<p>(4) 健康管理・安全衛生の意識向上</p>	<p>る。</p> <p>(4) ・生徒保健委員会による感染症への感染予防等の啓発活動 ・健康診断後の医療機関への未受診者に対する指導を徹底する。</p>	<p>・生徒アンケート「人権について、命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」85%</p> <p>(4) 未受診者 10%減</p>	<p>・生徒アンケート「人権について、命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」肯定的な回答は 89.6% (○)</p> <p>(4) ・健康診断後の再受診率 視力 7.3%、聴力 50%、眼科 25%、耳鼻科 15.4%、歯科 13.5%、検尿 75%、内科該当者なし 数値の改善 (10%以上減) が見られた。(○)</p>
--	-------------------------------	---	---	--

府立東淀工業高等学校

<p>3 自ら未来を切り拓く生徒の育成</p>	<p>(1) ・基本的生活習慣の確立・規範意識の向上</p> <p>(2) 高度な資格取得や各種競技大会に参加</p> <p>(3) SDGs への取り組み</p> <p>(4) 組織的・計画的なキャリア教育</p>	<p>(1) ・時間を守る、挨拶や言葉遣い、服装などの社会人基礎力の向上を徹底する。 ・毎朝、校門であいさつ運動を実施（生徒会も随時参加）し、生徒への声かけ、風紀指導も行う。 ・毎月の「学校生活の目標」を設定し、教員・生徒で共有し、達成をめざす。</p> <p>(2) ・3年間を通じて、将来に活かせる各種国家資格や検定へのチャレンジを支援し、生徒が達成感を得ることで自己肯定感に繋げていく。 各種競技大会に参加する大会回数を増やし、工業高校の魅力を発信する。 ・特色のある課題研究の実施など、生徒の「ものづくり」への興味・関心を引き出す。</p> <p>(3) NPO と連携し、生徒会が主体となり、取り組むテーマを絞り込み、学校全体での取組へと繋げていく。</p> <p>(4) ・外部教育機関・地域などと連携しながら、生徒の進路意識を高める進路説明会・出前授業等を実施する。 ・キャリアパスポートを活用し、生徒が学習プロセスを振り返り、見通しを持って、将来を見通したキャリア形成と、自己実現につなげる指導を行う。 ・ICT を活用して、求人票の閲覧など生徒が効率的に情報収集等を行えるよう工夫する。</p>	<p>(1) ・生徒アンケート「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」75% ・遅刻者数 1000 件以下 ・生徒会が中心となり、毎月「学校生活の目標」を生徒自ら設定し、教室掲示やキャンペーンなど啓発活動を行う。</p> <p>(2) ・資格取得にチャレンジする生徒の人数を全学年で前年度より5%向上させる。 [R3 536名] ・ジュニアマイスター取得者の増加をめざす： [R3 15名:G4名、S5名、B6名]</p> <p>(3) 学校全体でSDGsの1分野についての取組を開始する。</p> <p>(4) ・生徒アンケート「将来の進路や生き方について考える機会がある」75% ・就職希望生徒の内定率100%（就職一次試験の内定率80%以上）を維持する。</p>	<p>(1) ・生徒アンケート「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」肯定的な回答は83.8% (○) ・遅刻者数 1255 件 (△) ・「学校生活の目標」を設定することができなかった。 (△) ・延べ 448 名 (△) ・ジュニアマイスター取得者 (○) 合計 16 名 特別表彰 1 名、ゴールド 6 名、シルバー 3 名、ブロンズ 6 名</p> <p>(3) ・生徒会執行部が中心となり、工業科の援助を受けながら、本年度は「ペットボトルキャップの再利用した小物制作」を行った。文化祭でその取組みを発表し、地域のコミュニティ新聞からも取材を受けた。 (○)</p> <p>(4) ・生徒アンケート「将来の進路や生き方について考える機会がある」肯定的な回答は83.1% (○) ・就職希望生徒の内定率100%（就職一次試験の内定率89%）(○)</p>
-----------------------------	--	---	---	--

府立東淀工業高等学校

<p>4 地域に信頼される魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 地域連携の深化</p> <p>(2) 中学校との連携の深化</p> <p>(3) 情報発信・学校PR</p> <p>(4) ICTによる校務の効率化</p>	<p>(1) ・保育所との交流：インターンシップ、生徒作品（玩具製作）の寄贈 ・地域NPOとの連携：生徒への情報教育（プログラミングなど） ・地域区役所・地域企業との連携：工業実習でのコラボ授業 ・地域：生徒会が中心となる清掃活動</p> <p>(2) 学校の魅力を伝えるため、地域の小中学校などに対して出前授業を実施する。</p> <p>(3) 広報委員会が中心となり、SNS等を活用した広報を進める。ホームページはもとより、動画配信サービス（東淀チャンネル）を活用し、本校のものづくり教育や本校の特色を中学生・保護者などに積極的にアピールする。</p> <p>(4) 教職員間で、学習支援クラウドサービスを活用した連絡・データの共有化を進める。会議はペーパーレスで実施する事により印刷時間等を削減する。会議、連絡会等をリモートで実施することにより、会議時間短縮と感染防止に取り組む。削減した時間を、生徒指導や学校の魅力化等に有効的に振り向ける。</p>	<p>(1) 地域との連携を月1回以上の実施</p> <p>(2) 年間3回以上実施</p> <p>(3) 月間4本程度の動画配信サービスへの動画掲載</p> <p>(4) 教員アンケート ・「ICTの活用により校務が効率化されている」80% ・校内紙使用料前年度比15%減</p>	<p>(1) ・淀川区選挙管理委員会や淀川工業会、西淀川区の企業などと地域連携を行うなど、年間延べ5回以上行った（○）</p> <p>(2) 7月5日（火）豊中第七中学校や8月26日（金）歌島中学校（3科合同）など、年間3回以上実施した。（○）</p> <p>(3) 月間4本程度の掲載は未達成（△） 年間11本</p> <p>(4) 「ICTの活用により校務が効率化されている」教員アンケートにより肯定的な回答は91.1%（◎） ・校内紙使用料前年度比40%減（◎）</p>
--------------------------------	---	--	---	--